



宗像市議会議員

# 森田卓也 議会報告 2016年夏号

## 地区共同体で住みよいまちに

地区共同体という言葉をご存知でしょうか？

私たちの暮らしの中で、子育てや介護、老後の不安など様々な問題があります。

自分たちの住む地域を自分たちの手で住みよいまちにしていく仕組み「地区共同体」について6月議会で再提案、質問をした内容を皆様にご報告させていただきます。

### 6月議会報告

## 和の精神をもってまちづくりを

少子高齢化や人口減社会の今、一人ひとりが仕事や家庭で充実した日々を送るためには、子育てや介護、老後の生活の不安を解消することが欠かせません。行政の財源が限られている中、行政と市民が応分に負担する低予算で、五議互助による市民参加型の福祉まちづくりを進めていく必要があると私自身考えています。

本市の偉人・出光佐三翁の教えには、「和の精神、人の力、家族主義」というものがあります。これは市民参加型の福祉のまちづくりを進めて行く上で、市民共通の心の原点になり得るものであると思います。その教えを基に、以前提案した「地区共同体」について質問しました。 [裏面に続く](#)

## 地区共同体とは

半径1kmの円を中心に、空き家や空きスペースなどのコミュニティ・スペースを交流の拠点とし、約500世帯の住民が共同体という一つの大家族を構成するものである。日常生活の中でできる形で助け合う仕組みは、生活を豊かにする。失われつつある地域の繋がりを再構築するモデルにもなる。



### 地域の一人ひとりがバラバラ



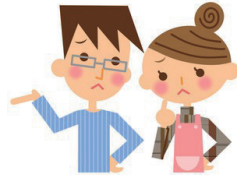
### 地域みんなで支え合う仕組みに

車がなくて、病院に行けない...



介護の孤立

子どもが風邪だけど、仕事休めない...



子育ての孤立

子どもを見てくれるところがあれば...

地域で孤立すると生活が苦しくする

おばあちゃん元気？

買い物行くよ♪

少し手伝って

いいよ♪

子ども預かるよ

電球変えるよ！

お裾分け

ありがとう♪



地域で支え合えることは生活を豊かにする

# 宗像の誇り、出光佐三翁の教えを持ち、 地域包括ケアシステム × 子育て施策 ＝「地区共同体」の実現を



## 一般質問

### 出光佐三翁の教えを活かす

和の精神を持って、市民が寄り添い、家族主義を持って市民共助の社会が生まれると市民の幸福感は増大すると考える。

**問** 市民の幸福感を達成する鍵である、出光佐三翁の教えを市政に反映することについてどう考えるか？

**答** コミュニティ施策、市民協働、教育、子育て環境の充実、グローバル人材育成などは、和の精神、人の力、家族主義といった佐三翁の教えを実践すべく取り組んでいる。

### 地区共同体実施のための具体案

具体的手段について質問し、以下の回答を得た。

#### ①自治会の活動の支援

自治会支援について、コミュニティ運営協議会などと連携しながら強化を図りたい。

#### ②空家や空スペースの活用へ補助金創出

それぞれの取り組みの政策的な位置づけ、活動目的を整理しながら市の支援のあり方について検討していきたい。

### 介護と子育ての一体的取組み

**問** 高齢者福祉施策（地域包括ケアシステム）とともに子育て施策も一体的に取り組んではどうか？

**答** 世代間交流や3世代交流など、今後地域や関係団体と協議しながら検討する。

**問** 日常生活支援という言葉があるが、どのようなことを期待しているか？

**答** 買い物や調理、掃除など家の中の身の回りの生活支援が自身でできない方への支援を期待している。

介護保険を使わずとも、地区共同体としてできるのではないかと提案。また地域包括ケアシステムの構築が中学校区では広すぎないかと懸念する。

**問** 地域包括ケアシステムを2025年までに自治会単位で構築してはどうか？

**答** 地区共同体の自助、共助といった地域の助け合いを、システムを構築する中でどのように取り込むのか研究したい。



電球の交換やごみ出しなど、日常生活の中で少し困っている部分を助け合うことができればどれだけ暮らしが豊かになるでしょうか。大変なことをする必要はありません。みんなができることをできる形で少しずつ持ち寄る「地区共同体」の仕組みは、きっと私たちの暮らしを豊かにするものだと考えています。これを確実に築いていけば、先進的な宗像市独特のまちづくりのモデルになります。